



5904-0061

クラブ・ヘッド・コンフォーマンス・ゲージ

取扱説明書

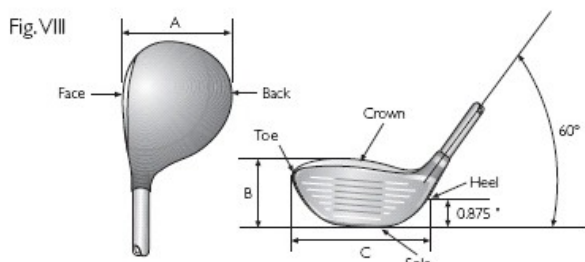
《製品の概要》

本器は、クラブ・ヘッド、特にウッド・ヘッドのデザインを規定する最新のUSGA/R&A ゴルフ規則 附則 IIにヘッドが適合するか、確認するためのヘッドスペック測定器です。

実施者間の誤差を排除して、正確に必要なデータを取得するには、セットアップに多くの手間や時間を要しましたが、クラブ・コンフォーマンス・ゲージはウッド、アイアン等、多様なヘッドに容易に対応でき、必要なデータを正確且つ短時間に得ることが出来ます。

本器具による計測で得られるデータは、以下のものです。
()内は模式図中のインデックスに対応しています。

1. フェイス(リーディング・エッジ)ーバックフェイスの水平距離(A)
2. 接地面からクラウン最頂部までの垂直距離(B)
3. トゥーヒールの水平距離(C)



出典: USGA/R&A ゴルフ規則 附則 II 4.b.(ii)

《目次》

- ◎操作パネルの説明、製品使用 — p.2
- ◎設置方法 — pp.2-3
- ◎測定方法 — p.3

《同梱品》

- 本体
- フェイス角計測器
- キャリブレーション・ブロック(ヘッド長)
- 予備ボタン電池(LR44型) & 六角レンチ

各ノギスの呼称と付属品



《設置と準備》

- 1) 平滑で水平な、がたつかない所に設置して下さい。また、直射日光やその他の熱源からも遠ざけて設置して下さい。
- 2) 3機のデジタル・ノギスの電源を入れて、動作することを確認し、電源を切っておきます。(図2-1)
- 3) ヘッド単体での計測の場合、ダミー・シャフトが必要になります。測定誤差の発生を避けるため、ヘッドのホーゼル径に合致したものを使用して下さい。

図2-1



《計測ヘッドの準備》

計測するヘッドを用意します。本器のライ角はゴルフ規則規定の60度で固定されており、ヘッドの設計ライ角が異なる場合、ライ角60度で、どのようにヘッドを固定するかが測定データを左右します。以下の基準から、いずれかをお選び下さい。

1) フェイス角基準

事前にライ角60度の場合のフェイス中心線を計測しておき、そのフェイス中心におけるフェイス角を0度にした状態で各値を測定します。アイアン等のフェイス面にバルジがないヘッドは、フェイス角を0度にして計測します。

2) ソール接地基準

シャフト軸延長線上のソール部を接地させる等、ソール接地方式の基準を設け、その基準で接地させ、測定します。

3) トゥーヒール極大基準

ソールのいずれかの部位を接地させたまま、トゥーヒールが極大となる位置で測定します。特に、規則で定められた最大限度に近い寸法のヘッドの場合、R&A/USGAが採り得る、最も厳しい評価を想定する意味でも、こちらの基準でも計測を行われることを推奨致します。

※リーディング・エッジ、ソール、トゥ、バックサイド等、本体や治具が接触する部分は、キズが付く恐れがあります。精度は低下しますが、必要に応じて、テープ等で保護してから、計測して下さい。

《計測手順》

ドライバーヘッドを例に、計測手順を説明します。基本的な手順は、ヘッド種によらず、同一です。文中の各部位の名称は、図3-2をご参照下さい。

〈ノギスのリセット〉

- 1) ヘッドをセットする前に、ヘッド高ノギスとヘッド長ノギスをリセットします。図3-1の円内、1～6の固定用つまみネジを緩め、3機のノギスの電源を入れます。
- 2) クラウン・プレートを下方限界まで押し下げ、ヘッド高ノギスの“ZERO”ボタンを押して、リセットします。その後、最上位まで上げておきます。
- 3) ヒール・ジグとトゥ・ウォールで、キャリブレーション・ブロック(127mm)を長軸方向に挟み、ノギスの“ZERO”ボタンを押して、リセットします。その後、ジグは最大幅まで拡げておきます。

〈ヘッドの固定〉

- 4) ヘッドの固定は、2ページ右段の3種の基準により、固定手順が異なります。採用される基準に対応した箇所をご参照下さい。シャフト・クランプの固定はナット二つを交互に一定まで締め付けた後、プラスチック板が切欠き側のナットを先に締め付け、最後に穴側のナットで固定します。

5-1) フェイス角基準での固定方法

ヘッドをセットするため、図3-2のように、フェイス・プレートをアームごと上に跳ね上げます。ダミー・シャフトを挿したヘッド、もしくはクラブをシャフト・クランプで軽く固定し、フェイス・プレートを戻して、図3-3のようにフェイス角計測器を取り付けます。フェイス角計測器の中央突起とヘッドのフェイス中心線を合わせて、フェイス角が0度になる位置でクランプを固定します。

5-2) ソール接地基準での固定方法

ヘッドをセットするため、図3-2のように、フェイス・プレートをアームごと上に跳ね上げます。ダミー・シャフトを挿したヘッド、もしくはクラブをシャフト・クランプで軽く固定し、ソールの接地状況を確認しながら、徐々にクランプを締めて固定します。

5-3) トゥーヒール極大基準での固定方法

ヘッドをセットするため、図3-2のように、フェイス・プレートをアームごと上に跳ね上げます。ダミー・シャフトを挿したヘッド、もしくはクラブをシャフト・クランプを軽く締めて固定し、ヘッドの向きを変えながら最もトゥが突出する向きで固定します。

- 6) シャフト・クランプ締め付け後、ヘッドとシャフト・クランプ全体をスライドさせ、ヘッドのトゥをトゥ・ウォールに当てます。計測中にヘッドが動かないようにクランプ上部のつまみネジ1を締めて、固定します。これで、ヘッドのセットが終わりました。

図3-1

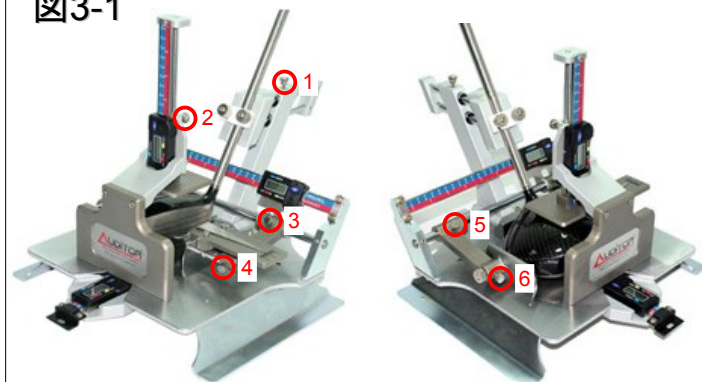


図3-2

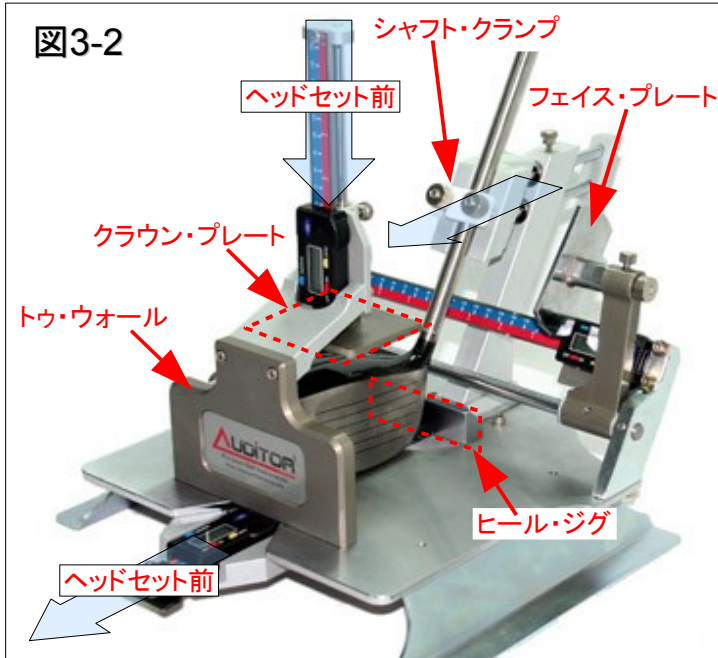
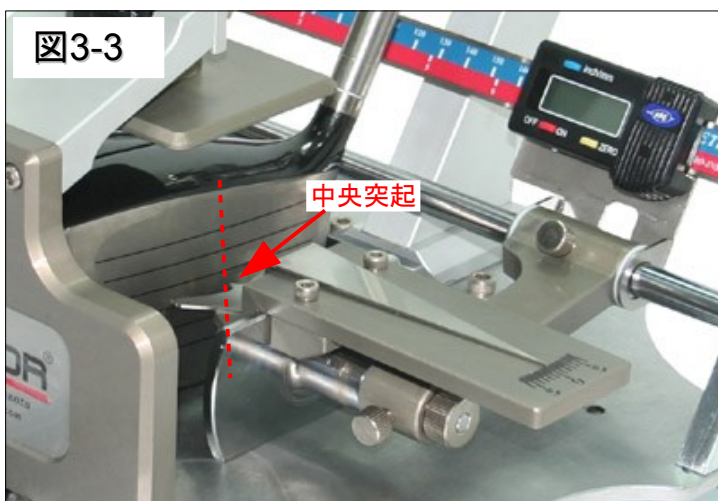


図3-3



〈ヘッド長(C)の計測〉

- 7) 計測するヘッドのヒール部分が明示的な形状であれば、ヒール・ジグをヘッドのヒール部分の高さに合わせ、ダイヤルで調整し、ヒールの最突出部に当てます。ヒールの高さがヒール・ジグの高さ(0.875インチ=22.225mm)未満の場合や、特定が難しい場合は、ヒール・ジグを最低位置にして当てて下さい。ノギスの表示は、キャリブレーション・ブロックの長さ(127mm)との差異になります。数値がマイナスならば適合、プラスの場合は不適合の可能性があります。記録して下さい。

〈ヘッド高(B)の計測〉

- 8) 図4-2のように、クラウン・プレートを徐々に押し下げ、ヘッドのクラウン最頂部に当てて下さい。当てた状態で、ヘッド高用ノギスに表示される数値がヘッド高(B)です。記録して下さい。

〈ヘッド奥行(A)の計測〉

- 9) 図4-3のように、バックフェイス・プレートをヘッド後端に当て、固定用つまみネジ5を締め付けて、動かないように固定します。次にフェイス・プレートを図4-4のように、リーディング・エッジに当て、ヘッド奥行用ノギスの“ZERO”ボタンを押してリセットします。

ヘッドを取り除くため、フェイス・プレートを一旦、ヘッドから離して、必要であれば、図3-2のように、アームごと上に跳ね上げ、クラウン・プレートも上げて、シャフトクランプを緩めてヘッドを取り除きます。

フェイス・プレートを戻し、バックフェイス・プレートに当たる位置まで動かして、ヘッド奥行用ノギスに表示される数値がヘッド奥行(A)です。記録して下さい。

以上で、計測手順は終了です。全ての固定用つまみネジを緩め、各ノギスの電源を切して下さい。

